

## BMC プログラム 海外派遣報告書

蛋白質研究所 細胞外マトリックス研究室  
生物科学専攻 博士後期課程3年 佐藤祐哉

参加学会：Gordon Research Conference ~ Fibronectin, Integrins & Related Molecules

会場：Ventura Beach Marriott, (Ventura, CA, USA)

派遣期間：2009. 2/1~2/6

BMC 海外派遣プログラムに支援して頂き、私は米国・カリフォルニア州 Ventura にて開催された Gordon Research Conference ~ Fibronectin, Integrins & Related Molecules にて、ポスター発表を行いました。Ventura はロサンゼルスから北西に約 100 km 離れたところにある、太平洋に面した長閑な田舎町です。参加した時期は日本では真冬にあたりますが、Ventura は暖かくとても過ごしやすい気候（日中は 22°C）でした。

参加した Gordon Conference は、一線級の研究者たちが寝食を共にしながら最新の知見について互いに議論するという、これまで私が国内外で参加した学会とは趣が異なる学会でした。（会議は全て非公開であり、会場内の写真撮影も禁止されていました。）このような趣旨のお陰で、発表される内容は非常に novelty が高く、議論も白熱したものでした。自分のポスターの発表で、一線級の研究者たちに自分の研究を説明し、そのような方々から研究に関する様々なコメント（特に好意的なコメント）を頂いたことは、私のこれまでの研究生活の中で何よりも大きな励みになり、今後の研究において大きな財産になると確信しています。私はこの学会に参加するにあたり、「自分の研究が世界の潮流のなかでどのように位置づけられるのか」「その中で自分の研究が、論文で頻繁に名前を目にするような研究者



図) 会場となった Ventura Beach Marriott

にどう評価されるか」「今後自分の研究をさらに展開・発展させてゆくために、どのようなアプローチが考えられるか」、を確認することを目標にしていたが、この学会の内容はそれらの全てを満足する、非常に密度が高く実りあるものでした。

海外での研究発表を経験して率直に感じたことは、日本人は（自分も含めて）非常に消極的だということです。常に相手の顔色を窺い、人の気分を害さない最も安全な（≡玉虫色の）受け答えのみに終始することは、日本にいる限りは必要かもしれないが、海外では全く意味をなさない。むしろ自分の意見を率直かつ明確に表現することが、非常に重要であると感じました。日本語は、受け手次第でとらえ方が異なるような、玉虫色の表現を好む傾向にある（ように私は感じる）。残念なことに、そのような表現は英語にできないことが多く、結局会話にならず笑ってごまかすしかない・・・ということを、私はこの学会で何度か経験しました。この点は非常に反省すべきです。積極的かつ率直に意見を伝えようとするれば、たとえ英文法がおかしくとも、発音が下手でも、相手とコミュニケーションが取れるということを、私は会議の終盤でようやく学ぶことができました。この経験は、次に海外で発表する際に活かしてゆきたいと思います。

最後になりましたが、BMC 海外派遣プログラムの御支援を無くしてこのような貴重な経験を積むことはできませんでした。BMC プロジェクトに関わる全ての皆様に、深く感謝いたします。また、関口先生を始め、細胞外マトリックス研究室の皆様には、研究に関するアドバイスからポスターのチェックなど、様々な形でお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。